記　者　発　表　資　料

令和２年３月31日
公立大学法人横浜市立大学
京浜急行電鉄株式会社
横浜市都市整備局地域まちづくり課

横浜“郊外”の魅力的な暮らし方のアイディア募集

はまっこ郊外暮らしコンペティション結果発表

横浜市立大学と京浜急行電鉄株式会社、横浜市は、横浜市内における新たな郊外の暮らし方について、空き家等を活用して実現する「すまいづくり・まちづくり」のアイディアを募集するため、「はまっこ郊外暮らしコンペティション」を実施しました。令和元年９月から12月まで募集し、76件のエントリーがありました。３月に「はまっこ郊外暮らし検討会」※1のメンバー※2による最終審査を実施。グランプリ１点、京急賞１点、横浜まちづくり賞１点、横浜市立大学賞１点、イノベーション賞１点、特別賞１点、はまっこ賞（佳作）４点を選出しました。

令和２年度についても「はまっこ郊外暮らし検討会」を継続し、受賞したアイディアの具体化等を産官学連携により検討していきます。

はまっこ郊外暮らしコンペティション審査結果

テーマ：横浜の郊外住宅地における魅力的な「暮らし方」

■受賞作品

・グランプリ：「あきシェア」※3　応募代表者　長縄　海広様

【審査員からのコメント】

「空きシェア」は、空間のシェアだけにとどまらず時間までもシェアしている提案だ。空間×時間が掛け合わせることよって不動産の稼働率があがり事業性が高まる。加えて、地域の人たちを利用者として、運営者として捉えることで多様な人材の利用を促している。平日と週末で滞在する人が異なるという現代の郊外住宅の特徴をとらえつつ、自然なコミュニティーを生み出して、課題を解決するという秀逸な提案である。団地住人たちの多様化する価値観とライフスタイルの積極的な実践の場を空き家に持つことのワクワク感が伝わってくる。

・京　急　賞：「ここからふるさとをはじめる」　応募代表者　手塚　悦子様
・横浜まちづくり賞：「境界に居場所ある街」　応募代表者　山田　智彦様（スタジオバッテリー）
・横浜市立大学賞：「自給自足のまち東朝比奈　郊外だからこそできる自給自足生活～持続可能な社会を目指して～」
応募代表者　石淵　皓太様
・イノベーション賞：「植物ラックコミュニティ計画」　応募代表者　清水　勇佑様
・特　別　賞：「子育て世代家族が住みやすい街能見台・富岡」　応募代表者　土屋　杏里様
・はまっこ賞（佳作）
「home town」　応募代表者　伊藤　睦子様
「空き家スタンプラリー(アキスタ)で街も住民もヘルシーに」応募代表者　江原　直様
「日本一共働きしやすいまちひかりが丘」応募代表者　榊原　瑞生様
「よこはま郊悦村物語」　応募代表者　萬羽　敏郎様

■受賞作品は４月２日「はまっこ郊外暮らしｺﾝﾍﾟ」ﾎｰﾑﾍﾟｰｼﾞ(http://www.hamakko-kougai.com/)で公表予定です。

※当初、シンポジウムを開催し、最終審査を公開プレゼンテーションにより実施する予定でしたが、新型コロナウイルスの感染拡大防止の観点より、発表形式を変更させていただきました。

裏面あり

参考

※１　はまっこ郊外暮らし検討会

横浜市立大学と京浜急行電鉄株式会社、横浜市が、産官学連携で令和元年５月に立ち上げた検討会。横浜“郊外”の魅力を生かした新たなライフスタイルについて、空き家等を使って実現する方策を模索している。本検討会では、都心部にはない郊外の豊かな緑や育児に適した居住環境といった郊外の特性や魅力を生かした取組を進める必要性や、若者世代が求める現代的な郊外での暮らし方の提案について議論しており、令和元年度は６回開催した。

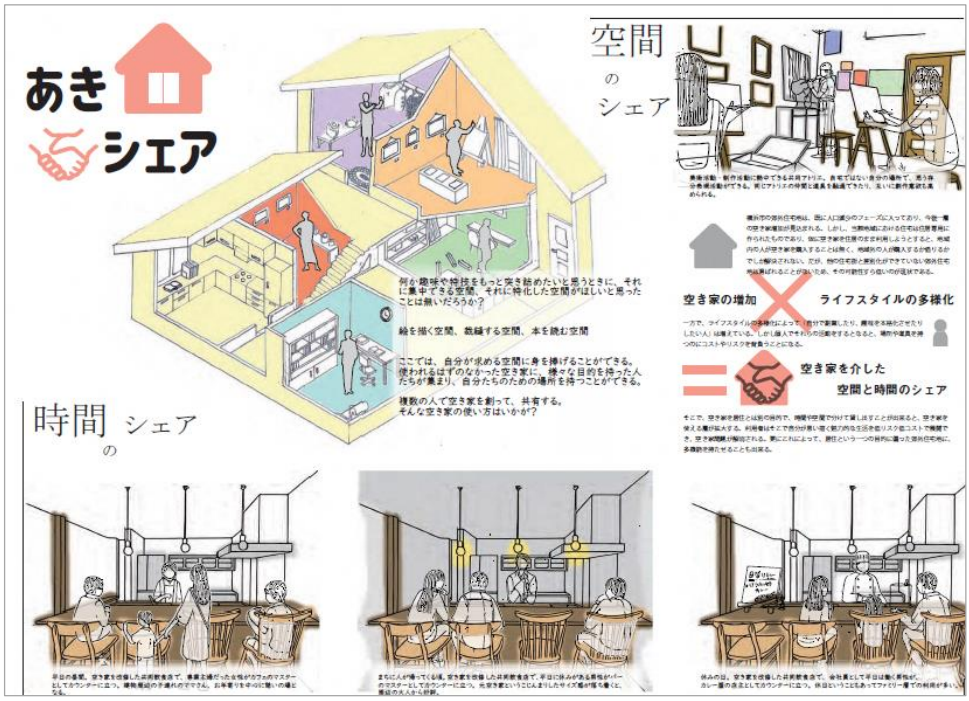
第３回検討会（令和元年９月）：金沢区並木周辺を視察。金沢ｼｰｻｲﾄﾞﾀｳﾝの課題や地域住民の活動について意見交換を実施。

第４回検討会（令和元年 11 月）：先進事例であるホシノタニ団地・黒川ネスティングパークを視察。

第５回検討会（令和２年２月）：最終審査に向けた検討会を実施。※第６回検討会は書面・ﾒｰﾙによる最終審査

※２　検討会メンバー

学：＜有識者＞池本洋一（株式会社リクルート住まいカンパニー）、
大島芳彦（株式会社ブルースタジオ）、吉里裕也（Ｒ不動産株式会社）
＜横浜市立大学教員＞齊藤広子、鈴木伸治、三輪律江、中西正彦

産：京浜急行電鉄株式会社　　官：（オブザーバー）横浜市都市整備局、横浜市金沢区

※３　グランプリ作品（一部抜粋）